

## 国際人口学会（IUSSP）理事会

国際人口学会（The International Union for the Scientific Study of Population）が1986年6月2日から4日まで3日間ベルギーのリュージュにある国際人口学会本部にて開かれ、当人口問題研究所の河野稠果が理事として出席した。今回の理事会は会長William Brass教授、副会長Massimo Livi-Bacci教授、事務総長のGeorge Tapinos教授、そして9人の理事が全員出席した。9人の理事はアルファベットの順で、Jose Alberto Magno de Carvalho（ブラジル）、M. A. El-Badry（エジプト）、Charlotte Höhn（西ドイツ）、河野稠果（日本）、Geoffrey McNicoll（オーストラリア）、Roland Pressat（フランス）、Samuel Preston（米国）、Jorge Somoza（アルゼンチン）、Léon Tabah（フランス）の各氏であった。ほかに事務局長のBruno Remiche氏も出席した。

今回の議題は国際人口学会が行う各種委員会のレビュー、理事選挙の方式、1989年にニューデリーで開催予定の次回大会の準備、国際人口学会が行っている教育訓練プログラムの評価、1985年フローレンス大会での組織運営上の評価・反省であった。今回の理事会最大の論点は次回理事選挙のあり方であったが、激論の結果、次回から今までのような大会出席者の大会中における投票ではなく、次回大会から1年前に候補者の選択をNomination Committeeが行い、その名簿を学会のBulletinに公示、次回大会の半年くらい前に郵便投票で決定することとなった。Nomination Committeeが推薦した名前以外の人でも立候補できることになっている。

（河野稠果記）